



## 初期議会と内閣の対決

③  
18 山県有朋(I) 内閣 1889.12~91.5. 長州閥

☆<sup>19</sup> 第一議会 (第1回帝国議会 20 1890.11~91.3)

首相演説…「<sup>21</sup> 主権線」(国境)だけでなく「<sup>22</sup> 利益線」(朝鮮)も守るべき→軍備拡張の必要性  
議会は政府予算案を拒否→混乱→自由党一部(土佐派)の離反→修正予算成立  
中江兆民、抗議の辞職(議会は「腰抜け」「無血虫の陳列場」)

④  
23 松方正義(I) 内閣 1891.5~92.7. 薩摩閥 ☆外相 <sup>24</sup> 青木周蔵

☆<sup>25</sup> 第二議会 (1891.11~12) …政府の軍艦建造費などの大幅削減要求を否決

海軍大臣<sup>26</sup>の<sup>27</sup> 蛭勇演説…薩長藩閥の功績を主張 →議会紛糾

現政府ハ此ノ如ク内外国家多難ノ艱難ヲ切抜ケテ、今日迄来タ政府デアル。薩長政府トカ何政府トカ  
言ッテモ、今日国ノ此安寧ヲ保チ、四千万ノ生靈ニ関係セズ、安全ヲ保ッタト云フコトハ、誰ノ功力デア  
ル。(笑声起ル) 御笑ニ成ル様ノ事デハゴザイマスマイ。

→政府は衆議院を解散→総選挙(第2回 1892) …<sup>28</sup> 選挙大干渉 (死者25人重傷者400人)

→それでも民党優勢(163/300)の結果

…内相(内務大臣) <sup>29</sup> 品川弥二郎

☆<sup>30</sup> 第三議会 (1892.5~6) 選挙干渉の責任追及などで紛糾 軍拡予算を再度否決 内閣総辞職

⑤  
31 伊藤博文(II) 内閣 1892.8~96.8. 長州閥 ☆外相 <sup>32</sup> 陸奥宗光

「<sup>33</sup> 元勳内閣」…山県(陸軍)、井上馨(内務)、黒田(通信)、後藤(農商務)らの内閣

☆<sup>34</sup> 第四議会 (1892.11~93.2) …政府の軍事費増額に対して予算の削減を議決

→(a) <sup>35</sup> 建艦詔勅 (和衷協同の詔書)…天皇が政府と議会の妥協を求める

(b) <sup>36</sup> 伊藤は自由党と接近 (超然主義の修正) →自由党、政府に協力 →予算成立

→改進黨、国民協会・大日本協会(史党)ら6派が反発

政府の条約改正交渉への批判で同調して連合(<sup>37</sup> 対外硬派連合)を形成 ※国民意識をあおる

☆<sup>38</sup> 第五議会 (1893) 対外硬派、自由党・内閣を攻撃 →政府、議会を解散(12/30) →総選挙(1894/3)

<sup>39</sup> 第六議会 (1894/5) 対外硬派と自由党が協調 →政府弾劾上奏案可決 →解散(6/2)

※7/16日英通商航海条約調印 7/25日清戦争開戦 9/1総選挙

<sup>40</sup> 第七議会 (1894/10/18) 大本営(軍の本部)が置かれた広島で開催

全政党が政府批判を中止、軍事費などを討論なし全会一致で可決

### 【正誤問題に挑戦】 <1994本試験、1991年本試験より>

- (1) 我が国最初の総選挙では、選挙人は、直接国税15円以上を納入する25歳以上の男子であった。
- (2) 開設された議会では、民力休養を主張する民党勢力と政府が対立し、第二議会の議会解散後の選挙では、政府による大干渉が行われた。